


みんなの議会 知らせ版

一般質問：令和元年9月18日（水）13：00～

元年3定号

順番	質問者	質問項目	答弁者
1	 鵜野議員	高齢者ドライバーによる踏み間違い事故防止へのサポートが必要	町長
2	 上野議員	高穂スキー場での子供達の利用増に向けて	町長・教育長
3	 篠原議員	JR 留萌本線存続に向けた取り組みは怎么样了か	町長
4	 篠原議員	国の幼児教育無償化によって生まれる財源を、子育て充実に使っては	町長
5	 篠原議員	日米貿易交渉の結果から沼田の農業を守ることはできるのか	町長
6	 篠原議員	大規模災害に備えた対応状況はどうなっているか	町長・教育長
7	 長野議員	防災対策には「知恵の備蓄」が必要ではないか	町長
8	 長野議員	出生率公表と北空知出生率向上委員会（仮称）の設置を	町長
9	 久保議員	食堂が沼田町からどんどん無くなり、秩父別町には増えている	町長
10	 高田議員	2025年問題をどのように克服するのか	町長
11	 伊藤議員	公共施設の計画と町づくりについて	町長

令和元年第3回定例会は、9月18日から19日までの予定です。

9月18日 10:00～ 一般行政報告(町長)・教育行政報告(教育長)
13:00～ 一般質問(11件)

是非、役場3階 議場 までお越しください。

中途からの入場、中途退場もできますので、お気軽に傍聴下さい。
なお、議員並びに理事者・説明員におきましては、軽装のまま議案審議を行いますので、傍聴の皆様におかれましても、楽な姿勢でご来場願います。

～健康福祉総合センター（役場東側玄関）から入り、エレベーターを利用すると便利です～

お問合せ先：沼田町議会事務局

令和元年 第3回沼田町議会定例会 一般質問要旨
【町長】

通告順	1	質問 議員	鵜野議員
質問 項目	高齢者ドライバーによる踏み間違い事故防止へのサポートが必要		
質問 内容	<p>最近、高齢者ドライバーによる交通事故が新聞やニュースで取り上げられています。</p> <p>特にアクセルとブレーキの踏み間違いによる事故が近年増加しています。</p> <p>事故防止に向け、踏み間違い装置の開発や装着車、免許制度の改正などが検討されています。</p> <p>さらに政府や自治体では免許の自主返納や高齢ドライバーに運転を控えるという動きも活発になってはいますが、沼田のようにクルマがないと生活に困る地域もあります。</p> <p>しかし、危険を顧みずに運転をしてよいとゆうわけでもありません。</p> <p>東京都では「高齢者安全運転支援装置補助事業」を始めました。</p> <p>本町においてもこのような事業に取り組めないか。</p>		

【町長・教育長】

通告順	2	質問 議員	上野議員
質問 項目	高穂スキー場での子供達の利用増に向けて		
質問 内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 観光資源と考え「かまくら」「雪ダルマ」等、雪像体験が出来るスペースとする。 <ul style="list-style-type: none"> ・圧雪車、スノーモビルの乗車体験。更にスキー、スノーボードの牽引スキー ・リフトがあるスキー場なので、北空知広域スキー場として協議会を立ち上げ利用増に繋げる。 2. 沼田の子供達がスポーツを通じて学ぶ事が多いと思うので利用する環境を整えるべきと思う。 <ul style="list-style-type: none"> ・中学生以下のリフト代の無償化 ・スキー場への送迎対策 ・ロッジのスペース増設（プレハブ） ・スキー用具の一時保管場所の確保 ・スキー学校の親の負担の軽減策等 		

【町長】

通告順	3	質問 議員	篠原議員
質問 項目	JR 留萌本線存続に向けた取り組みはどうか		
質問 内容	<p>JR 北海道は全路線の半分以上に当たる 10 路線 13 区間を「自社単独では維持困難」とし、大規模な路線廃止を行おうとしています。鉄道の廃止は、単に「通勤通学ができない」「病院に行けない」など住民生活に影響を及ぼすだけでなく、人口流出を加速させ、地域社会が崩壊しかねないという深刻な問題を抱えています。沼田町は JR 留萌本線存続を訴えていく立場であるという認識の元に以下の質問をします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 選挙後構成メンバーが新しくなった留萌線沿線自治体会議ではどのような話し合いが行われたのか。現在の赤字の原因は、民営化時に創設された経営安定化基金によって赤字を埋めるというスキームが破綻していることによるもので、国が招いた赤字の責任を道民や沿線自治体に押しつけることは間違いだと国に言い渡すように JR や道に対して要求しているのか。また、S キップ 4 の復活など、町民の利便性向上を提案するという回答が前回定例会であったが、合わせてどのように経過しているか。 2. 今年 of 道議会第 2 回定例会において、JR が国や自治体の支援を前提として存続を目指す 8 区間の利用促進費を補正計上したが、今後市町村にも負担が求められることが考えられる。この利用促進策は沼田を含む廃止前提の 5 路線は除外されている。もしそうなった場合沼田町は廃止なのに負担だけ負うという対応になるのか。 3. 町は、留萌線利用促進策として前回の町議会第 2 回定例会においてイベントの単発的な取り組みだけではなく継続的に取り組んでいく考えを示されたが、日常的な乗車率増加に向け、どのような方策をとっていくのか。現段階での構想を教えてください。 		

【町長】

通告順	4	質問 議員	篠原議員
質問 項目	国の幼児教育無償化によって生まれる財源を、子育て充実に使っては		
質問 内容	<p>10月から実施される国による幼児教育無償化では、保育料が無料になる一方で副食材料費が無償化の対象から外され、保育施設が実費徴収することとなっている。沼田町では国の幼児教育無償化に先立ってすでに認定こども園での保育無料化を実施しているが、今後国による無償化が実施されることにより不要となる財源が生じると思われる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 今回新たに国からの交付金が下りることにより、沼田町の持っている財源で不要になる部分があると思うが、それはいくらくらいになるのか。 2. 不要になる財源はそのまま一般財源化するのではなく、子育て支援のための予算として引き続き使用するのが適していると思うがどうか。 		

【町長】

通告順	5	質問 議員	篠原議員
質問 項目	日米貿易交渉の結果から沼田の農業を守ることはできるのか		
質問 内容	<p>8月に行われたアメリカ大統領との貿易交渉において、日本は農産物の関税をTPP水準並みに引き下げることを約束し、さらにアメリカ産農産物を輸入拡大することに合意しました。これは農業を基幹産業とする沼田町にも大きな影響を及ぼすものと考えます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 今回の日米貿易交渉の結果により、沼田町の農業はどのような影響を受けるのか。具体的に示してほしい。 2. これまで沼田町としてはこの問題に関してどのように情報収集を行ってきたか。 3. 沼田の農家を守る方法として、今回の交渉結果を受けてどのような対策が必要となるのか。 		

【町長・教育長】

通告順	6	質問 議員	篠原議員
質問 項目	大規模災害に備えた対応状況はどうなっているか		
質問 内容	<p>昨年北海道を襲った巨大地震とそれに続く大規模停電により、災害は一気に私たちの身近な課題になった。今年も九州や関東地方で大雨や台風による被害が出ている。昨年の大規模停電から一年、災害の教訓はどのように生かされているのか。災害への対応状況について現状とこれからのことを聞きたい。</p> <p>1. 先日の台風15号では強風による送電線に被害などで大規模な停電が起きている。北海道では発電態勢は昨年の教訓から改善されているが、依然大規模停電の可能性はなくなっていない。避難するほどではなくても家庭で長時間の停電に備えるための対策はないのか。</p> <p>2. 沼田町でも過去に大規模な地震や水害などの災害を経験しているが、時とともにその記憶も風化していく。まだ当時の災害を体験した世代が元気なうちにその記憶を受け継いでいくことも大切に思う。そのようなことについて、学校教育や社会教育の場面でもっと取り組みを充実させてはどうか。</p>		

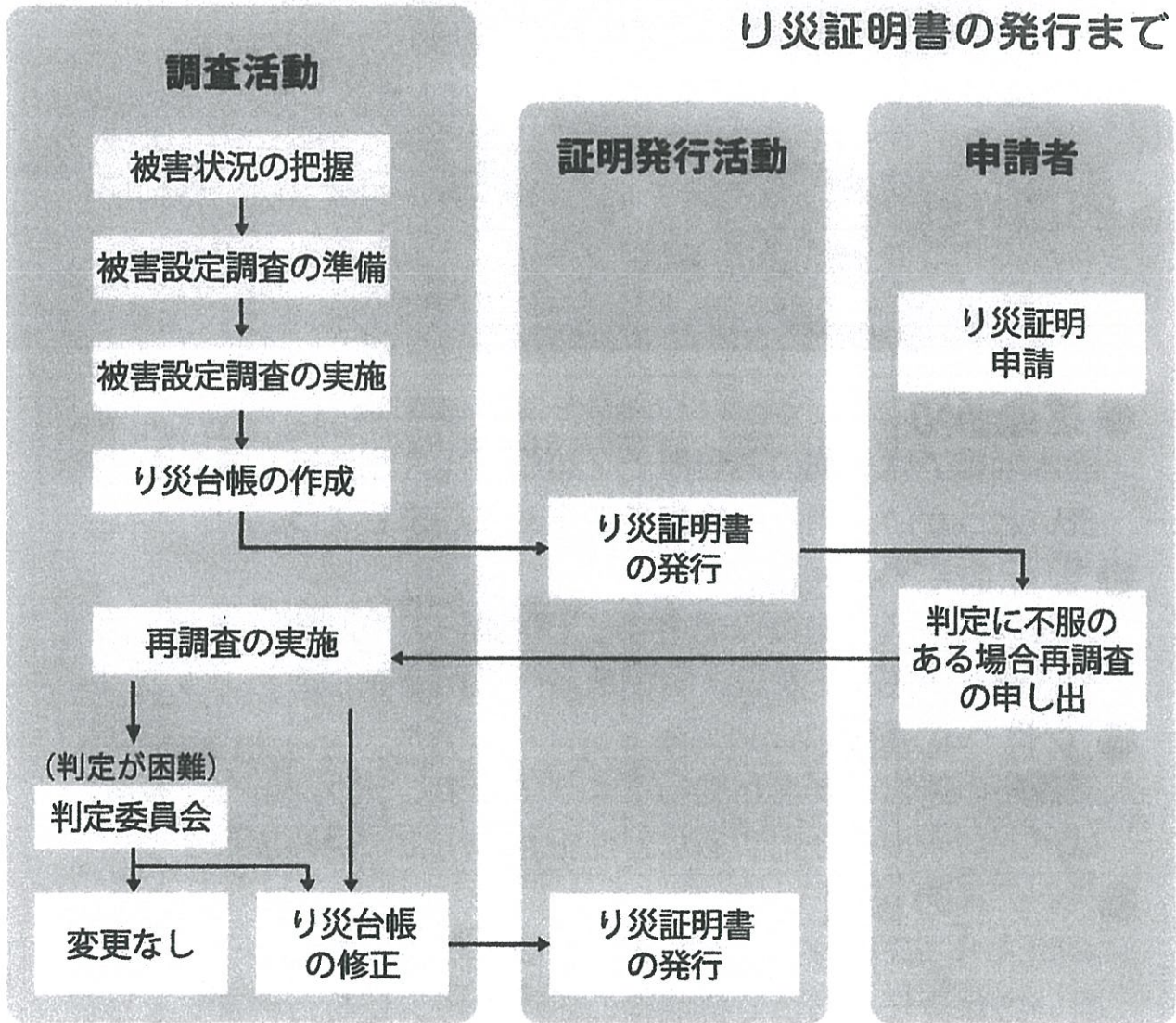
【町長】

<p>通告順</p>	<p>7</p>	<p>質問 議員</p>	<p>長野議員</p>
<p>質問 項目</p>	<p>防災対策には「知恵の備蓄」が必要ではないか</p>		
<p>質問 内容</p>	<p>防災対策の予防・回避・対応で最も大切なことは、「予防」と言われています。</p> <p>沼田町役場には、150ページをこえる「沼田町防災計画」があります。町民には、「防災のしおり」が配布されています。昨年のブラックアウトの教訓から避難所の発電機設置、トイレトレーラー等、ハード面予防対策がなされています。</p> <p>一方で、大規模災害被災者の立場で考えたとき、次の課題が考えられます。</p> <p>1 生活再建の具体的道しるべを示すべきではないか 大規模災害の発生後、直面するのは生活再建の問題です。被災後どんな問題が起きどんな支援制度があるのか。平常時から防災計画や防災のしおりに「り災証明書」等の証明書の取得や支払いの減免などの実際に起こる問題についてわかりやすく伝える必要があるのではないか。</p> <p>2 より使いやすい「防災計画」、「防災のしおり」にすべきではないか 職員が使用する防災計画は、文字が小さい、読みづらい、使いづらいのではないか。担当者の異動をも想定し、更なる機能的な改善が必要と思われるがどうか。 防災のしおりは、高齢者や外国人にも見やすく配慮されたものになるよう工夫改善、加除修正、更新すべきと考えるがどうか。</p> <p>3 町内会と連携した防災訓練の実施が必要ではないか 防災訓練を実施することにより、町内会と事前の各部署の打ち合わせをする事の効果、町民参加による防災の方法、防災コミュニティの強化が期待できるがどうか。</p> <p>平常時から町民にスムーズに説明し、安全・安心につなげられる知恵の備蓄こそ、転ばぬ先の杖であり最大の予防ではないか。町長の考えを聞きたい。</p>		

資料1 三重県松坂市「災害に備える～

生活の再建

生活を再建する足掛かりとなるのが「り災証明書」です。



自然災害で被災した後、生活再建を行うためにさまざまな支援制度があります。その支援を受けるためには、被害の程度（全壊・半壊など）を証明する「り災証明書」が必要となります。

【町長】

通告順	8	質問議員	長野議員
質問項目	出生率公表と北空知出生率向上委員会（仮称）の設置を		
質問内容	<p>前回6月、町長は、少子化子・子育て対策に対する事業は、日本トップクラスであると言われました。確かに近年沼田町は、1.8と全国一位の沖縄県レベルであり、沼田町の様々な取組が功を奏しています。</p> <p>ですが、資料①「予想を上回る衝撃！20年後の日本（出典：日本創生会議）」では、2040年までに日本の自治体の約半数（赤色部分）が消滅の可能性があると言われてます。少子化対策は、引き続き沼田町が取り組むべき緊急ではないが、最重要課題ではないか。</p> <p>1 沼田町は出生率を毎年公表すべきではないか 資料②は、平成26年公表の現在の期間合計特殊出生率です。これでは、国勢調査に合わせているため公表には、5年かかるという欠点があります。出生率は、もはや子育て世代だけの問題ではなく、時代を映す鏡です。この鏡を沼田町が先頭になって、毎年、出生率のみ公表、見える化する事で、今以上に沼田の社会全体で子育てをしていく風土の醸成となるのではないか。</p> <p>2 北空知出生率向上委員会（仮称）を設置すべきだが 沼田町単年度出生率を町内外に発信した後は、近隣市町と成果と課題を共有してこそ価値があります。「競争ではなく協同」の理念に立ち、北空知出生率向上委員会の設置、推進を通して、北空知の少子化対策のリーダーとして人口減にストップをかけ、共存共栄の未来づくりの一步としてはどうか。</p> <p>私は8月、中央要望に行って来ました。視察地の横浜市は300万人超、台東区はベットタウンとして人口増、中央は人口減はさほどの問題ではないのです。</p> <p>繰り返し、町長に問います。人口問題は地方から声を上げるべき問題です。子どもが、若者が未来に希望を持てる環境を今以上に整えることが、人口減少時代を生きる我々の使命であると考えます。町長の意見を聞きたい。</p> <p>※期間合計特殊出生率とは、（略）一人の女性が出産可能とされる15歳から49歳までに産む子どもの数の5年間の平均を示します。</p>		

介護人材が
全国で
37.7万人不足

2025
年頃

今 日本は、大きな分岐点
に立っている。

2016年の出生数は97万人をまわり、初めて100万人を回った。今後この減少の流れは加速し、65年には約50万人にまで落ち込んでいく。一方で、65歳以上に占める高齢以上の高齢者のシェアが、65歳から74歳まで倍増ペースよりも多くなる転

2033
年頃

全国の3割が
空き家

2065
年頃

高齢者1人を
1.3人が支える
社会に

2040
年頃

女性の平均寿命
がおおよそ
90歳まで上昇

AI・ロボットで
2035年には
仕事が半減。
2045年には
人類総失業？

「会社をリタイアしたら、自由気ままにのんびりと老後を過ごしたい」。日々の仕事に忙殺されている、働き世代のあなたはそう願っているかもしれない。でも、今後の日本の姿を予想できていますか？ ちよつと未来を覗いてみよう。

完全図鑑
2024年に
出版される
この図鑑の
2024年版

年後の日本

青野雄介＝構成 松浦洋幸＝撮影 大橋昭一＝地図作成 PIXTA＝写真

換となる。高齢者の中でも高齢者がより進んでいるのだ。60年代になると、総人口の2割が65歳以上になるという。現代、女性の4人に1人は高齢者生活を送っている。私たちは、高齢化社会の真っ只中にあるのだ。

人口が激減する一方、老人の割合が増え、40年には人口の3割が高齢者となる。これからの日本社会、若者や若者の価値が上がり、地域や大きな差を差けていく。少子高齢化が進む現在、長寿時に何が起こりつつあるのか。それをどう受け止めるのか。何気なく日常をやり取りしているときつかないが、少子高齢化の未来をしっかりと見据え、現実と向き合い闘争しおかないと、私たちがどうと未来の姿に耐えられない。なにかをこころす。

現在の若者世代が自分で選んだ生活を送るため、住まいや健康、年金、仕事、暮らしなどに固執する。最終的にどうと向き合っていくのか。一瞬一瞬の未来を生きるには、今から準備しておきたい。

2040年自治体消滅マップ

2040年までに日本の自治体の半数、896の自治体が消滅の可能性

● 日本全国の赤色部分は消滅の可能性がある自治体 (出所: 日本創成会議)



2040
年頃

人口の3割が
高齢者

20

予想を上回る衝撃!

資料2

出生数及び合計特殊出生率

平成26年

	総 数	合計特殊 出生率
全国	1,003,539	1.42
全道	37,058	1.27
空知総合振興局	1,703	N/A
南空知第2次保健医療福祉圏 岩見沢保健所	925	1.27
夕張市	27	1.32
岩見沢市	504	1.27
美唄市	136	1.19
三笠市	45	1.18
南幌町	41	1.15
由仁町	24	1.41
長沼町	52	1.43
栗山町	81	1.33
月形町	15	1.27
中空知第2次保健医療福祉圏 滝川保健所	590	1.33
芦別市	61	1.21
赤平市	33	1.22
滝川市	281	1.43
砂川市	105	1.3
歌志内市	5	1.24
奈井江町	29	1.15
上砂川町	19	1.38
浦臼町	11	1.31
新十津川町	31	1.38
雨竜町	15	1.35
北空知第2次保健医療福祉圏 深川保健所	188	1.31
深川市	131	1.28
妹背牛町	12	1.34
秩父別町	16	1.35
北竜町	10	1.24
沼田町	19	1.32
資料人口動態統計（確定数）		

合計特殊出生率（保健所・市町村分）：人口動態統計特殊報告（平成25～29年人口動態保健所・市区町村別統計）

【町長】

通告順	9	質問議員	久保議員
質問項目	食堂が沼田町からどんどん無くなり、秩父別町には増えている		
質問内容	<p>沼田町は炭鉱が疲弊し始めた 1960 年に「沼田町議会石炭特別委員会」を設置し、農業が厳しい折には全町をあげて緊急集会を開催したり、スノークール・ライス・ファクトリーを建設し近年でも色彩選別機に 4 億円を投資するなど行政努力の更新を続け、農業機械の購入費用のサポートや花嫁対策や農家ごとの看板など、きめ細やかに寄り添っていただいています。</p> <p>そして今、もっとも厳しい業種、つまり全町をあげて支援すべき業種はどこでしょうか。沼田町の料飲店が激しい勢いで閉店ラッシュを重ねています。きらく、峰、八千代、のらくろ、やえがし食堂。一方で隣町の秩父別町には、地元の主婦による起業型の『おこめ食堂』や、他町からの移住型の『餅菓子と喫茶 日日（にちにち）』など食堂の新店ラッシュが続き、既存店も町あげてのブロッコリー・グルメ戦略で元気な情報発信や改装を展開しています。</p> <p>確かに食堂は個人経営の努力や、商工会によるリーダーシップや要望の統一が必要ですが、食堂や商店の元気バロメーターは町づくり政策の結果です。ここ数年で沼田町に安心センター、まちなかホットタウンができ、秩父別町にはちっくる、キュービック・コネクションができましたが、施設ができたことによる商店街への良い波及効果では食堂の増減数だけで秩父別町の政策効果が勝ってきたのは明らかです。この両町の格差を町づくりをになう町長、行政、議会は重く受け止めなければなりません。</p> <p>商店街が線から点になり消滅する前に、大胆な政策が求められます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看板、改装、機械、特殊車両などへの効果的な支援が必要ではないか 2. イベント広場だけではなく個店への入客を促す事業が必要ではないか。 3. 行政を納品やゴミ収集などでサポートする民間企業は疲弊していないか。 4. 地元の有志や地域おこし協力隊などの起業や継承サポートは万全か。 		

【町長】

通告順	10	質問 議員	高田議員
質問 項目	2025年問題をどのように克服するのか		
質問 内容	<p>「2025年問題」が提起されて、5年ほどが経過しました。町ですすめてきた「コンパクトエコタウン構想」にある「安心センター」や「商業施設」は、2025年問題を克服する足掛かりとなる施設です。沼田町はどのようにして「2025年問題」を克服するのか、具体的な議論をする時期に来ています。</p> <p>1, 2025年時点での人口推計はどうなっているのか。 総人口(0~64歳・65~74歳・75歳~に分類した人口構成)</p> <p>2, 2025年時点での要支援・要介護の対象人口は、現在と比べてどのように変化するのか。</p> <p>3, 2の対象人口の方達が、介護を受ける形態はどのようになるのか。 施設介護・通所介護・在宅介護の内訳は。</p> <p>4, 3を実現するために不足しているものはあるのか。 介護施設のキャパシティ・介護職員(ヘルパー含む)のマンパワー 高齢者住宅の充足度 などは十分なのか。</p> <p>高齢のご夫婦や単身の方達に、「自分は最後まで沼田で暮らしたい」と言ってもらえる町を目指したいと思うが、町長の思いを伺いたい。</p>		

【町長】

通告順	1 1	質問 議員	伊藤議員
質問 項目	公共施設の計画と町づくりについて		
質問 内容	<p>第2回定例会において今後の公共施設の在り方についてはプロジェクトを組み検討することだが、どのように取り組まれるのかお伺いしたい。</p> <p>町民体育館や化石レプリカ工房、ふるさと資料館やスキー場のリフトなど教育関連施設が特に老朽化していると考えています。また、厚生病院跡地の利用など課題は山積です。</p> <p>このことから、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プロジェクトの体制はどのように進められ、いつまでにまとめられるのか。 2. その結果内容については、どのように計画に反映させるのか。また、町民への周知は行われるのか。 3. コンパクトエコタウン構想との関連性や町づくりにどのように繋がっていくのか。 <p>を質問いたします。</p> <p>限られた財源の中、全ての施設を更新することはできないと考えますが、使用できるものは有効的に活用し、優先順位を付け、計画を開示し、将来の沼田町の青写真を町民に示す必要があると考えますので、お伺いいたします。</p>		